

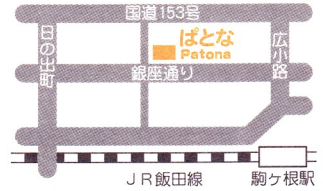
こまがね市民活動支援センター



ぱとなだより

Patona

第10号
2012.2



駒ヶ根市中央16番7号
Komagane-shi, chuo, 16-7

TEL: 82-1150 FAX: 82-1151
Mail: kmcenter@cek.ne.jp
URL: http://www.patona-k.com

2012年仕事始め式で気を引き締め 支援のあり方に思いを

こまがね市民活動支援センター「ぱとな」の
2012年仕事始め式が1月4日、市内中央の
同センターで行われました。

同センターや「まちなかスクエア」の職員5人を前に、鈴木明所長は「センターは3年目に入り、過去2年間の経過を踏まえ、暮れにスタートした『あり方検討会』の検討結果に沿った活動を主体として進めます。今年にはアンケートを参考に、センターのあるべき姿を導きだす期間にしたいと考え

ます」とあいさつしました。新年に当たり▽あり方検討会推進▽あり方検討会の結果による運営▽ホームページの充実▽エコポイントの企業版確立▽加入団体の活動調査・硬直化対策▽マイマジンニア宣言活動推進▽看護大学交流▽新しい公共会議への参加・など8項目の推進事業を確認しました。



ミニソースかつ丼150食が30分で完売

市民活動支援センターの登録団体「あついでこまがね(原正彦会長)は市民団体に呼び掛け、市内中央の銀座通りで「地蔵尊すくすく」

駒ヶ根の新しいイベント 地蔵尊すくすく縁日

「縁日」を昨年10月から毎月第3土曜日に開催しています。回を重ねるごとに来店者や来場者が増え、にぎわいが増しています。

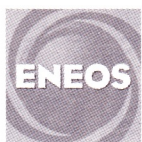
縁日は同会が呼び掛け、子育て地蔵尊・御乳石地蔵・鉢巻達磨の3体を建立したことを契機に始まりました。第3回目となった12月17日は好天に恵まれ、縁日定



スタッフが勢揃いし仕事始め

また、宮澤事務局長は「事務局の中ですぐ改善できることから始めよう」と呼び掛けました。

番の射的や綿あめをはじめ、野菜、中沢おやき、木工細工、手作りのつるし飾り、クレープ、トン汁などのほか、師走とあついでミニ門松のテントも並びました。駒ヶ根ソースかつ丼会が味を競うミニソースかつ丼食べ比べには3店が各50食を用意、販売開始前から長蛇の列ができ、30分足らずで売り切れました。親子連れは出店を楽しみながら「駒ヶ根に新しい名所ができたね」と話していました。



JX日鉱日石エネルギー株式会社 販売店

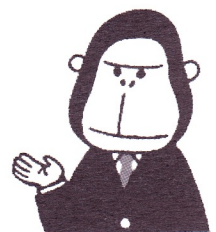
駒ヶ根自動車産業株式会社

本社 〒399-4111 駒ヶ根市北町31-15 ☎0265-83-3434 FAX 0265-83-5054

■カーケアステーション北町 駒ヶ根市北町31-15 ☎0265-83-3434

■カーケアステーション南町 駒ヶ根市赤穂小町屋10770 ☎0265-83-2762

■カーケアステーション中央アルプス花の道 駒ヶ根市赤穂8172-3 ☎0265-83-5500



中心市街地に定期市を

“あついでこまがね”



鉢巻達磨・子育て地藏・御乳石地藏

駒ヶ根市中央銀座通りに「3地藏尊」が建立され毎月第3土曜日に、地藏尊すくすく縁日(定期市)が開催され、多くの人々が縁日を楽しみ、商店街がにぎわっています。

この3地藏尊は昨年10月、あついでこまがねが建立しました。「子どもたちがすくすく育つように子育て地藏を、お乳が良く出るように中沢区上割の御乳石地藏を、諸願成就を願う駒ヶ根名物鉢巻達磨に願を掛けます」と原正彦会長。

同会は「市街地を活性化させ、

中心市街地に『市』を起こそう」と町四区の1999年度の町内会長らが呼び掛け、趣旨に賛同する市民が集まり、09年4月に12人で結成しました。「市街地活性化にはイベントを仕掛け、会員自らが先頭に立って行動することが不可欠」と、中心商店街での定期市「3地藏尊すくすく縁日」の開催、つるし飾りでまち興し、鉢巻きを付け願い事が書き込める鉢巻達磨の販売を3本柱に活動しています。

商店街の空き店舗につるし飾りを常設展示し、作り方を教えたり、販売する拠点づくりのために、「吊るし飾りを楽しむ会」をつくり、作り手を増やそうと、ぼとなで作り方講習会を開いています。

「すくすく縁日」はまちづくり活動を進める市民団体に呼び掛け、10月から実施しています。初回はぼとなまつりと共同開催し、2回目は悪天候の中、野菜や花、ミニソースかつ丼、やきそば、おやきなどテントのほか、活動資金ねん出のため鉢巻達磨の販売も行いました。

同会は「すくすく縁日」の出店者を募集しています。合わせて、3地藏尊建立の浄財を募っています。

代表・原正彦さん

事務局・市内赤穂14648・14

電話・82・6330

会員・23人

区紹介 16 (最終)

「下平区」

駒ヶ根ふるさと祭りで大震災復興に協力

北は大田切川、南は七面川、東は天竜川、西は市場割、町四区境まで、天竜川に沿って南北に長く、地名の通り平らな水田地帯です。区加入戸数は392戸です。

区内には長野県西駒郷、県こころの医療センター駒ヶ根、幼稚園、公共下水道駒ヶ根浄化センター、下平体育館、駒ヶ根農村環境改善センターなどがあります。また、上の原・大田原・下平の3工業団地には13の優良企業が立地しています。天竜川に沿った水田は1畝ごとにほ場整備され、水路はパイプラインが完備されています。丸塚公園は親子のふれあいの場として、グラウンドはリトルリーグなどの練習に、堤防はランニングコースとしてにぎわっています。

今年度の最大のイベントは下平区が当番を務めた駒ヶ根天竜ふるさと祭りです。「3月11日の東日本大震災を受け、一時中止も検討しましたが、『大震災復興に協力するには、まず地域が元気を出す必要がある』という実行委員会の判断で開催を決定、多くの企業、市民のご協力、ご賛同を得て、8月27

日に開催しました」と菅沼幸穂区長。祭りは「大震災復興頑張れ日本」をテーマに、被災地支援につながる祭りにしようと、姉妹都市の二本松市の20組の園児、保護者を招待し、2尺玉4発のほか多数の花火を打ち上げ、市民に楽しんでいただきました。

分館事業は敬老会、成人式、スポーツ大会、文化祭など多彩。平坦な地形に恵まれたまとまりのある元気な区です。

将来予想される災害に対する防災対策、高齢者支援、地区社協の活動など多くの課題を継続して検討する委員会を発足させ、住みよい下平区の協働のまちづくりを検討することが必要と考えております。



天竜ふるさと祭り

区役員

区長・菅沼幸穂さん

副区長・小出憲男さん

分館長・春日治夫さん

こまがね情報発信地

まちなかスクエア

終

2年間
ありがとうございました。
(閉店に向けて)

平成22年9月に広小路通りに開店して以来1年9か月の間、自らの起業を目指し「まちなかスクエア」を開店しながらまちなか活性化事業と担い手育成事業に携わり活動して来ました。



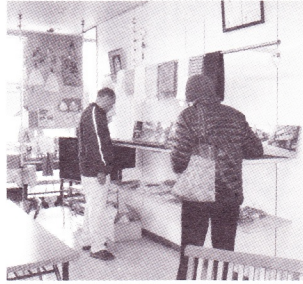
店内の様子

この間、駒ヶ根の観光案内をはじめ、市内の名産品や工芸品の展示と販売をしながら、「道行く市民の皆さんのまちなかのお茶の間」としての場を提供して来ました。更には、市民団体やグループの皆さんのご要望で、補助金申請の情報提供や補助的な事務局として活動のお手伝い等もしました。
また冊子などの制作や広

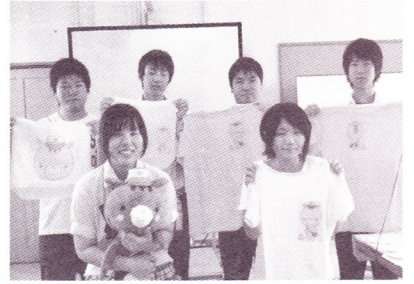


観光客も
七夕に参加

ホームページ、ブログ、フェイスブックを連携し、より多くの人の目に留まるような情報発信の他、商店街の一員としてイベントの



展示品を見る
来店者



力強い協力者
駒工生の皆さん

「スクエアを閉店するこ
とは残念だ」と多くの皆さまからお声を戴きますが、
これまでご支援いただいた



わいわい・がやがや
キッズデコグッズ教室



オリエンテーリング
一番乗り

準備から参加、共に汗を流してきました。
しかし、思うような進展とならなかつたこともあり、意見の相違から活動を断念することもありました。これもまた社会の中で大切な経験であり、重要な勉強であったと感謝しています。この活動を通して、たくさんの方と絆ができたこと、様々な体験、経験ができたことは私たちの財産となり、新たな仕事をしていくうえで糧となりました。

皆様にあらためて感謝し、閉店いたします。またどこかでお会いできる事を楽しみにしています。



北海道の議員さん
スクエアを視察



和気あいあい
キャンドル教室

「こまがね豆知識」

前号の問題の答えです。

- ① スピード太郎とヒッピー
- ② 宮田町、伊那村
- ③ 中央アルプス、南アルプス
- ④ 重要文化財
- ⑤ 高い

皆さん、わかりましたか？

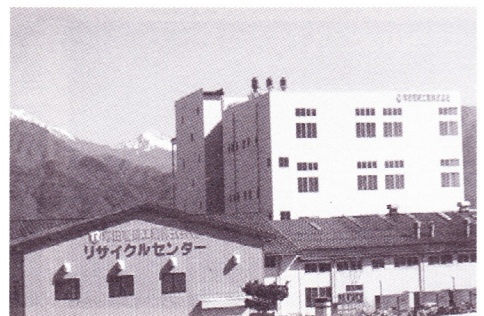
環境にやさしい
プラスチックめっきのパイオニア

塚田理研工業株式会社

Tsukada Leken Industry Co Ltd



長野県駒ヶ根市赤穂16397-5
TEL 0265-82-3256
FAX 0265-82-5349
URL: <http://tukada-riken.co.jp>



連載 「ぱとな」への想い(完)

こまがね市民活動支援協会
理事 加治木 今

パートナーの「ぱとな」

いくつかの視察、協働についての講演会を経て、いよいよ、南信地区で初めての市民活動支援センターがオープンしたのは2009年10月でした。建物は、銀座の旧スーパを改築、機能は印刷と会議スペース、備品は機能に合わせた機器。運営は、公設民営として、市からの委託金で「こまがね市民活動支援協会」が運営していく。外枠が決まり、組織も運営に向けて作りました。センターの名前は、市民活動のパートナーの「ぱとな」。印刷機はよく働いています。会議スペースは課題があります。展示も出来ます。こうして今年3年目を迎えます。協働という言葉が、世の中に出てきて7年くらい。協働とは何なのか、今様々な見直しが始まっています。

市民の活動が活き活きと

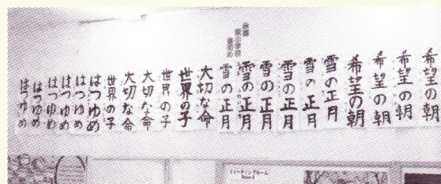
活発になることは、市の原動力の一つになり、協働の力となります。これを、側面から、支援したいという想いの、「ぱとな」はいかがでしょうか。3年目を迎える今、いろいろ課題も出てきました。先進地も時間の経過と共に、課題を抱えています。やってみてわかること。そうですね。やってみなければわからなかったこと。皆さんが使いやすいのが、印刷機能、会議スペース、場所、対応等々、その役割を果たしているのだから、検証が必要ですね。現在、3年目に向けて登録団体の皆さまのアンケートを基に最初の想いと実際を検証しています。「ぱとな」を作りたかった想いが軸となって、いろいろな分野での市民活動や自治会の支援ができ、その活動が発展していく。また、ちよっと立ち寄れるところ、聞きたいことを聞けるところ、そんな「ぱとな」を、市民で育てていきたい。こんな想いを持って前に進みます。

(終わり)

「ぱとな」からのお知らせ

●「ぱとな」の展示コーナー利用について

「ぱとな」の展示コーナーを利用してみませんか？現在、4月以降の展示物を募集しています。何か展示をしたいとお考えの方は、お気軽にご相談下さい。詳しいお問合せは、「ぱとな」までお願いします。



赤穂東小学校3～6年生の書初め
(2月末まで展示予定)

●「こまちゃんエコポイント補助チケット」の入力期限にご注意を！

市内のエコ活動に参加して「こまちゃんエコポイント」の補助チケットをお持ちの方は、チケットに記載の入力期限のご確認をお願いいたします。期限を過ぎると無効になりますので、お気を付け下さい。

編集後記

「行く川の水の流れば絶えずして、しかも元の水にあらず」と松尾芭蕉が奥の細道に書いています。かつて「小さな親切運動」が日本の社会に呼び起こり、お年寄りや困っている人を見たら助けてあげる等、互いの生活の中で共存共栄していくことの大切さを考えた事の起りでありました。しかし、社会の変遷の中で、こうした自分だけの思いや親切は、時には相手にとって、「いらぬおせっかい」でもあります。ボランティア活動や市民活動も同じことが言えるかもしれません。「自分たちの想いだけで事を進めることが本当に社会の公益に役立つのか」と常に活動の中で自問自答することは大切だと思えます。まさしく、同じ水の濁みは新鮮な水さえも濁らせることから常に対流をさせて新水を受け入れることは必要です。こうした社会の流れの中で、支援センターは、活動する市民団体や市民の皆さんとの四方山話に花を咲かせ、新たな湧水の交わりにご支援をしてみたいです。

皆さんにご愛読頂きました「ぱとな」だよりには、本号を持ちまして終了致します。また、新たな情報を広くご提供できるように研鑽に努めます。ありがとうございました。

【事務局長 宮澤】

発行日 平成24年2月

発行者

こまがね市民活動支援センター

ナパック株式会社

当社製品紹介



代表取締役社長

鈴木 隆

駒ヶ根市赤穂 14-1823

TEL 82-5266

FAX 82-5270

URL <http://www.napac.co.jp>